

20年6月視点

年齢と共に結婚式に出席することが少なくなってきたが、たまに出席すると引き出物が楽しみであったりする。しかし、最近ではカタログギフトの冊子が入っていることが多くなったように感じる。好きな品物が選択できるという点では、主催者側の親切心からだと思うが、新郎新婦の顔が見えてこないと感じるのは、私だけだろうか。以前離島であった結婚式では、遠距離来ていただき荷物になっては困ると、男性にはネクタイピン、女性にはネックレスを引き出物にした夫婦がいた。万人向きの引き出物ではないかも知れないが、そのネクタイピンを見ると、当時の新郎新婦の様子が思い出される。カタログギフトの冊子は、品物を選ぶ時間や手間を省くことができることや、不必要なものを貰わなくてもよいという良い面がある。しかし、品物を選ぶ時間や手間等、その無駄と思えるものの中に大切なものがあるのではないだろうか。新郎新婦にとっては、ウエディングケーキ入刀が初めての共同作業ではなく、引き出物を「どれにしようか。出席者が喜んでくれるかな」と選ぶ時間を共有することも心を深めていく共同作業であるように思う。(植田)